2020 年 3 月 16 日

『isee! “Working Awards”2020』 報告書

概要

公益社団法人　NEXT VISION では、特に就労に注力した事業として、「isee! "Working Awards"」を実施しています。
今年で 4 回目となる「isee! "Working Awards"」は、「就労」に焦点をあて、視覚障害者（見えない、見えにくい人）がどのように働いているのか【事例】、また、どうすれば働けるのか、あるいはどんな働き方ができるか【アイデア】を募集しました。
応募された【事例】と【アイデア】を審査員に選んでいただき、広く社会に発信することで、視覚障害者の社会参加、就労、ひいては社会の戦力として働き、社会の損失を軽減させることを目的としています。
本年の応募数は、27 件で、内訳は、事例部門が 1 4 件、アイデア部門が 13 件でした。事例部門が昨年よりも 1 件増えた半面、アイデア部門の応募が 12 件減りました。
審査の結果、事例部門の入賞が 7 件、事例部門の入選が 5 件でした。また、アイデア部門の入賞が 3 件、アイデア部門の入選が 8 件でした。

募集期間：2019 年 7 月 1 日（月）～10 月 31 日（木）

【事例部門】【アイデア部門】ともに業種・業界など分野の制限はなく、地域も全世界を対象とします。また、応募は自薦、他薦、個人、企業、団体、グループなど問いません。
【事例部門】は実際に就労していた、もしくは現在就労している事例を対象とします。支援者に焦点を当てた応募もできます。
【アイデア部門】においては、どなたでもご応募できます。具体的なアイデアと、そのアイデアを実現するために必要なプランをご記載いただきます。

審査員からのメッセージ

審査委員会議長
三宅　養三（公益社団法人　NEXT VISION　代表理事）
多様な分野の方々に審査員になっていただくことで、公平かつ独自性のある審査を行うことができると考えており、本アワードの趣旨にご賛同いただき委員に就任してくださった 7 名の委員のみなさまに心より感謝いたします。私が審査に直接関わることはありませんが、多種多様な事例やアイデアの審査に議長として関われることを楽しみにしています。

審査員（五十音順）

大胡田　誠（社会福祉法人日本盲人会連合評議員）
チャーリー・チャップリンの映画の中に、「人生に必要なのは、勇気と想像力、それとほんのちょっとのお金だ。」というセリフがあるそうです。これは、視覚障害者の就労を成功させるためにも必須のものではないでしょうか。

私は、この賞で、応募してくださった皆さんの「勇気」と「想像力」を称え、そして、それを「ほんのちょっとのお金」に結びつける応援ができたらと思っています。
樫原　伴子（神戸市保健福祉局障害福祉部　就労支援担当部長）
近年、「働き方改革」のかけ声とともに、障害のある方も障害のない方も働き方がどんどん多様化しています。
「働き方改革」の中では、「休暇の取得」や「労働時間の削減」など、制度的な改革が先行していますが、「働きやすさ」や「やりがい」を発揮することへの工夫も必要であると感じます。
このような中で、視覚障害のある方から発信されたアイデアがさらに多くの視覚障害者を勇気づけ、視覚に障害のある方々の社会参加がひろがっていくことを期待しています。
竹中　ナミ（社会福祉法人プロップ・ステーション理事長）
子どもの頃から友人に弱視や全盲の方がたくさんおられ、「目で判断する私」と、違った能力に驚かされることが多々ありました。
今、プロップ・ステーションでも全盲の青年が活躍していますが、視覚に限らずどんな障害も、本人ではなく環境の不備でその人の持てる力が発揮されないという残念な状況が生まれます。
プロップ・ステーションが目指す「ユニバーサル社会」というのは、全ての人が持てる力を発揮することができ、かつ支え合うことのできる社会ですが、その実現には、医療、教育、科学技術、社会制度、政治、習慣・慣習などなど、様々なものが「一人一人の力を生かす方向」に進化する必要があり、日本社会はまだ、その途上やと思います。
「isee!　"Working Awards2020"」で、ユニバーサル社会への道を拓く、多くの知見に出会えることを楽しみにしています！！
田中　伸一（神戸公共職業安定所　雇用対策部長）
年々企業で働く障害者の方は増加しています。しかしながら、就業中の障害者に占める視覚障害者の割合はまだまだ少ないのが現状です。
みなさまからは、企業が視覚障害者を雇用するヒントになるような事例やアイデアをいただき、１人でも多くの視覚障害者の雇用につながることを期待しています。
津田　諭（社会福祉法人日本ライトハウス視覚障害リハビリテーションセンター顧問）
　視覚障害があってもご自分の能力を生かして社会に貢献している方は、たくさんいらっしゃることと思います。働いてこられた皆さんの事例一つ一つが、その生き様の反映だと思います。
就労分野にはまだ多くの壁が存在しますが、皆さんの事例をご披露頂くことはこれから続く視覚障害者を勇気づけるものになると思います。
　多くの方のご投稿を期待しています。
半澤　宏子（株式会社日立製作所　基礎研究センタ日立神戸ラボ）
年齢や障害の有無にかかわらず、人はだれしも、そしていつでも自身が持っている可能性を最大限発揮してより良くいきることをもとめています。
この想いを実現するための取組みを聞かせてください。皆さんからの事例やアイデアが広がって、他の誰かの道をひらいていくことを期待しています。
福場　将太（医療法人風のすずらん会　精神科医）
回復には三つあります。病気の症状がなくなる臨床的回復、社会の中で生活できる社会的回復、そして自分の人生に喜びや希望を感じられる心理的回復です。

大切なのは臨床的には回復できなくても社会的・心理的回復は成せるということ。そのための最も有効な手段が就労です。現場のみなさんこそが専門家、医学書にはない知識やアイデアをどんどん僕に教えてください！

審査基準

isee! “Working Awards”の審査は、仕事内容や個人の能力を評価したり、順位づけや優劣を決めるものではありません。応募をすべて拝見し、審査員の方々の経験や思いに基づいた独自の視点により、審査員の方々からご意見をいただいたものに、公益社団法人 NEXT VISION よりアワードを贈るものとします。
よって、アワード名はその内容に合わせて変更・追加する場合があります。

賞の紹介

受賞者に 「就業者＝Player」 と しての喜びを感じていただくこと、 また、 今後の就業モチベーション向上を目的として MVP（Most Value Player）表彰の要素を含ませ、「isee!運動」 の i.s.e の 3 文字を使い「MIP 賞」「MSP 賞」「MEP 賞」「METP 賞」を設けました。
【就労事例部門】
●MIP 賞
Most Inclusive Player 賞（周囲の協力を活用した事例）
●MSP 賞
Most Strength Player 賞（経験を強みとした事例）
●MEP 賞
Most Effort Player 賞（継続的な努力を重ねた事例）
●METP 賞
Most Edgy Technology Player 賞（最新技術を活用した事例）
【アイデア部門】
●価値転換賞
障害（弱み）を強みとする発想転換のアイデア
●環境整備賞
ロービジョンの方の就業促進に配慮した環境整備・啓蒙活動に関するアイデア
●ビジネスプラン賞
実現可能性とビジネス要素を多く含んだアイデア

事例部門入賞者（７名）

Ｎｏ	応募者	種別	タイトル	受賞名
1	渡部　隆夫	個人	休むことなく研究職の継続を可能にした 社内外のサポートと自己流の訓練	MIP賞
2	森畑　裕子	個人	将来を考え見据えたサポートと環境づくり 高まる意欲とチャレンジできる環境に感謝	MIP賞
3	清野　貴至	個人	視覚障害者のトリセツ(取扱説明書) -伝える前に伝わるようにするための工夫-	MIP賞
4	チームロービジョン	団体	《チームロービジョン結成》 個々の能力の結集で1+1+1を3以上の効率化	MSP賞
5	ボーダレスビューティープロジェクト	個人	コミュニケーションに自信が持てる！ 視覚障害者の方のためのビューティサポート	MSP賞
6	竹田　幸代	個人	視覚障害者も消費者の一員。資格を生かして 企業や行政に声を届けることが私の仕事！	MEP賞
7	杭迫真奈美	個人	かつて追い求めた光を失ってもくじけない。 Excelと読み上げソフトで新たな仕事を創出。	METP賞

事例部門入選者（５名）

1	上原　晋	個人	自分仕様の小さなチョコレート屋起業で11年！	入選
2	鈴木佐知子	個人	盲女美術家SACHIKOのスーパーかわいい絵画展企画事業 ～アール・ブリュットの作品100点を、広く市民に提供～	入選
3	ブラインドオンラインサービス	団体	ブラインドオンラインサービスサロン メーリングリストの運営	入選
4	前川　浩一	個人	既製品の組み合わせによる「会議用ロービジョンサポートデバイス」の業務運用	入選
5	城谷　直人	個人	教わった電話番号からつながった社会復帰 ～当たり前ではなかった復職への流れ～	入選

アイデア部門入賞者（３名）

Ｎｏ	応募者氏名	種別	タイトル	受賞名
1	赤星　里咲	個人	小学校での点字図書読み聞かせ	価値転換賞
2	(特非)視覚障害者パソコンアシストネットワーク（SPAN）	団体	視覚障害者就労促進事業 ～全国どこでも質の高い職業訓練を～	環境整備賞
3	井上　直也	個人	遊ぶ・学ぶ支援する 視覚障害者向け総合情報サイト	ビジネスプラン賞

アイデア部門入選者（８名）

1	武岡恵美子	個人	香りの専門家（アロマテラピー メディカルアロマに関する事業）	入選
2	大橋　正彦	個人	ビジョンパークサポーターズの結成！ モチベーションアップトークショー開催	入選
3	神田　信	個人	視覚障害者の職域開拓と病院の法定雇用率 ピアカウンセリングを取り込み、八方良し	入選
4	㈲オフィス　Serendipity	団体	心もほぐすヘルスキーパー！ メンタルコーチング技術で“ココロ”と“カラダ”をケアする人材育成プロジェク	入選
5	北村　直也	個人	フラット解決！ クリアリープロポーズ	入選
6	木村　朱美	個人	就労中の視覚障害者の可能性と力を 最大限に引き出そう！	入選
7	ボーダレスビューティープロジェクト	個人	お出かけ前にメイク・ファッションチェック ができるオンラインサポートシステム	入選
8	鈴木さやか	個人	視覚障がい者の方のための化粧品開発 ユニバーサルデザインコスメ	入選

《isee! Working Awards 2020 発表・表彰式》

日時：2020 年 2 月 16 日（日）13：30～15：30（受付は 13：00 から）

場所：神戸アイセンター　Vision Park
　　神戸市中央区港島南町 2-1-8 2F

参加者数は 59 名(うち受賞者 16 名、付き添い・一般参加 22 名、スタッフ・ボランティア 21 名)

プログラム：
13：30～13：40　開会挨拶
　　主催者挨拶　代表理事　三宅養三
　　日本財団挨拶　公益財団法人 日本財団 公益事業部
　　国内事業開発チーム　桂 詩央里様
13：40～14：10　受賞者発表と審査員の講評
　受賞者を発表し、表彰式に出席された次の５名の審査員から講評をしていただきました。
樫原　伴子（神戸市保健福祉局障害福祉部　就労支援担当部長）
竹中　ナミ（社会福祉法人プロップ・ステーション理事長）
津田　諭（社会福祉法人日本ライトハウス視覚障害リハビリテーションセンター顧問）
半澤宏子（株式会社日立製作所　基礎研究センタ日立神戸ラボ）
福場将太　（医療法人風のすずらん会　精神科医）
14：10～15：20　表彰及び受賞者とのトーク
　出席された受賞者に賞状を授与し、お一人ずつ応募内容を発表していただきました。
出席された受賞者は以下の１６名でした。
入賞：渡部　隆夫、清野　貴至、チームロービジョン（大橋　正彦)、ボーダレスビューティープロジェクト（花田　真寿美)、竹田　幸代、杭迫　真奈美、赤星　里咲、(特非)視覚障害者パソコンアシストネットワーク（北神　あきら)、井上　直也
入選：ブラインドオンラインサービス（野々垣美名子)、前川　浩一、大橋　正彦、㈲オフィス Serendipity（鱸伸子)、北村　直也、木村　朱美、ボーダレスビューティープロジェクト（花田真寿美)、鈴木　さやか
15：20～15：30　閉会挨拶
　　理事　髙橋政代より閉会の挨拶を行いました。
閉会後、受賞者全員で集合写真を撮影しました。

おわりに

今回で４回目の募集でしたが、特にアイデア部門の応募数の伸び悩みとなりました。事例部門については、昨年よりも１件増えたもののまだ少ないので、一層、本コンクールの情報発信を行い、募集の周知を広く呼び掛けることにより応募数の増加となるよう努めたいと思います。ただ、応募いただいた内容については、事例、アイデアともに充実したものが多く、審査員も高く評価をしています。レベルの高い応募が集まったことはとても良かったと思います。
今年の発表・表彰式は新型コロナウイルス感染拡大を防止するため発表者以外の一般参加者への案内を控えたことで参加者の数は少なくなりました。受賞者で出席を予定していた方の中からも出席を辞退される方がありました。
表彰式で受賞者本人から受賞内容の紹介をしていただき、より発表者の思いを伝えることができました。表彰式終了後受賞者同士で交流を深めていらっしゃったことが印象的でした。新型コロナウイルス感染防止ということで一般参加者の数は少なくなりましたが、充実した発表・表彰式となったと思います。
今年もコンクールの案内チラシに音声コード（uni-voice）を付加して印刷し、印刷物が見えない方への配慮として取り組んでいます。
受賞者の事例及びアイデアの内容については、公益社団法人 NEXT VISION のホームページで公開し、広く社会の人々に知っていただけるように情報発信をしています。
また、事例とアイデアの内容、審査員のコメントを冊子にまとめた就労事例・アイデア集を作成し、参加者に配付しました。広く本事業の内容を知ってもらうためにも冊子の有効活用を図りたいと考えています。今後の募集においても就労事例・アイデア集を活用し、応募の数を増やすために生かしたいと考えています。
最後になりますが、本コンクールの実施に当たり日本財団から助成をいただきましたことに深く感謝申し上げます。

【別添資料】

別添資料１　募集関係資料

（１）チラシ
（２）応募要項
（３）応募用紙
①事例部門自薦応募用紙
②事例部門他薦応募用紙
③アイデア部門応募用紙

別添資料２　表彰状

（１）事例部門入賞（7 件）
（２）アイデア部門入賞（3 件）
（３）事例部門入選（5 件）
（４）アイデア部門入選（8 件）
（５）感謝状（2 件）

付録資料３　受賞者の事例・アイデア集（配布冊子）

視覚障害者の社会価値の創出を目指す「アイシー運動」

視覚障害者のホントを見よう isee!運動

isee! “Working Awards”

2020
視覚障害者の“就労”に関する事例＆アイデア募集

募集期間：令和元年7月1日（月）～令和元年10月31日（木）

応募方法：●E-mail　visionpark@nextvision.or.jp

●郵送先 〒650-0047　神戸市中央区港島南町2-1-8神戸アイセンター2F
公益社団法人 NEXT VISIONアイシーワーキングアワード係

●FAX　078-304-4466

詳細はこちら

isee! Working Awardsのホームページより応募用紙をダウンロードし、必要事項をご記入の上、メール・FAX・郵送のいずれかの方法でお送りください。
※郵送の場合は10月31日（木）必着。
メール、FAXでの応募は10月31日（木）24時00分（日本時間）受付分まで有効。

主催：公益社団法人　NEXT VISION
助成：日本財団

審査基準

isee! “Working Awards”の審査は、仕事内容や個人の能力を評価したり、順位づけや優劣を決めるものではありません。応募をすべて拝見し、審査員の方々の経験や思いに基づいた独自の視点により、審査員の方々からご意見をいただいたものに、NEXT VISIONよりアワードを贈るものとします。

募集内容

【 事例部門 】視覚障害者がどのように働いているのか・企業で活躍しているのかの事例。ロールモデルとして他企業での普及を目指します。

【 アイデア部門 】どのようにすれば働けるのか・どんな仕事や分野ならば活躍できるのかのアイデア。審査終了後に応募者自らが事業化などに関与する意志の有無を確認するなど、事前にヒアリングを実施する場合があります。

※【事例部門】【アイデア部門】ともに業種・業界など分野の制限はなく、地域も全世界を対象とします。また、応募は自薦、他薦、個人、企業、団体、グループなど問いません。
※【事例部門】は実際に就労していた、もしくは現在就労している事例を対象とします。支援者に焦点を当てた応募もできます。（例：経験を強みとした事例、最新技術を活用した事例、支援者の支えを評価した事例など）
※【アイデア部門】においては、どなたでもご応募できます。具体的なアイデアと、そのアイデアを実現するために必要なプランも合わせてご記載ください。

表彰

【事例部門】は、就労事例を isee! 運動ホームページで紹介します。特に注目する事例については、審査員からのコメントとともに別途ご紹介することがあります。また、【事例部門】として応募された場合も、【アイデア部門】として表彰させていただく場合があります。

【アイデア部門】では「価値転換賞」「環境整備賞」などの表彰を行う予定ですが、審査の段階で変更となる場合があります。
なお、表彰式につきましては、令和2年2月16日（日）にアイセンター内のビジョンパークで予定しております。

【事業化等の支援】
優秀な就労アイデアについては、応募者自らが事業化に関与する可能性も含め、公益社団法人NEXT VISIONや協力企業、機関・団体とともに事業化・商品化などアイデアを実現するための支援のあり方について応募者と協議する場合があります。

【 注意事項 】

1.【アイデア部門】においては、オリジナルでコンテストやそれに類するものに未発表のものに限ります。
2.同一応募者による【事例部門】【アイデア部門】の両部門への応募が可能です。
3.労働関係法令に関する重大な違反がないことおよびその他の法令上社会通念上、表彰にふさわしくないと判断される問題を起こしていないことを応募の条件とします。
4.反社会勢力と認められる個人・団体からの応募は、公益社団法人 NEXT VISIONおよび審査委員会が、コンテスト運営上支障があると認めた場合は応募をお断りする場合があります。また、審査後であっても受賞を取り消すことがあります。
5.応募の内容について他者の著作物（画像、データ等）が含まれる場合は、応募者の責任において事前に承認を得るなど適切な処理を行ってください。
6.応募者は応募内容の中に第三者が知的所有権の権利を有し、法的に保護されているアイデアを利用していないことを事前に確認してください。【事例】については事実に反しないことを約束してください。
7.応募内容の著作権に関しては、応募の時点で主催者に帰属するものとします。
8.応募内容アイデアの知的所有権は応募者に帰属します。
9.表彰される【事例部門】【アイデア部門】は公益社団法人 NEXT VISIONホームページ、 isee! 運動ホームページで掲載するなど各種広報媒体にて広く公表します。
10.アイデアの事業化、商品化の場合の権利は主催者に帰属しますが、必要に応じて応募者と相談の上、決定します。
11.審査についての個別のお問い合わせには応じられません。
12.応募書類の返却は行いません。

私達は「isee! “Working Awards” 」を通して、一人でも多くの方に視覚障害者が持つ能力と可能性を知ってもらい、企業、社会、市民との連携・理解が深まることを願います。

お問い合わせ

公益社団法人　NEXT VISION
〒650-0047　神戸市中央区港島南町2-1-8神戸アイセンター2F
E-mail：visionpark@nextvision.or.jp
TEL：078-304-4455

isee! "Working Awards 2020" 応募要項

募集内容
・【事例部門】
・【アイデア部門】

【事例部門】【アイデア部門】ともに業種・業界など分野の制限はなく、地域も全世界を対象とします。また、応募は自薦、他薦、個人、企業、団体、グループなど問いません。

【事例部門】は視覚障害者が就労していた、もしくは現在就労している事例を対象とします。支援者に焦点を当てた応募もできます。
（例：経験を強みとした事例、最新技術を活用した事例、支援者の支えを評価した事例など）
【アイデア部門】においては、どなたでもご応募できます。具体的なアイデアと、そのアイデアを実現するために必要なプランも合わせてご記載ください。

応募期間
令和元年７月１日（月）～令和元年 10 月 31 日（木）
郵送の場合は令和元年 10 月 31 日（木）必着。
メール、FAX での応募は令和元年 10 月 31 日（木）24 時 00 分（日本時間）受付分まで有効。

応募方法
応募用紙に必要事項をご記入の上、メール、郵送または FAX で下記までお送りください。

連絡先
E-mail：visionpark@nextvision.or.jp
郵送先：〒650-0047　神戸市中央区港島南町 2-1-8 神戸アイセンター2F
　　公益社団法人 NEXT VISION　アイシー ワーキング アワード係
FAX：　078-304-4466

今後のスケジュール
・応募開始……令和元年７月１日（月）
・応募締切……令和元年 10 月 31 日（木）
・発表式……令和２年２月 16 日（日）

審査基準
isee! "Working Awards"の審査は、仕事内容や個人の能力を評価したり、順位づけや優劣を決めるものではありません。応募をすべて拝見し、審査員の方々の経験や思いに基づいた独自の視点により、審査員の方々からご意見をいただいたものに、公益社団法人 NEXT VISION よりアワードを贈るものとします。

注意事項

1.【アイデア部門】においては、オリジナルでコンテストやそれに類するものに未発表のものに限ります。
2.同一応募者による【事例部門】【アイデア部門】の両部門への応募が可能です。
3.労働関係法令に関する重大な違反がないことおよびその他の法令上社会通念上、表彰にふさわしくないと判断される問題を起こしていないことを応募の条件とします。
4.反社会勢力と認められる個人・団体からの応募は、公益社団法人NEXT VISIONおよび審査委員会が、コンテスト運営上支障があると認めた場合は応募をお断りする場合があります。また、審査後であっても受賞を取り消すことがあります。
5.応募の内容について他者の著作物（画像、データ等）が含まれる場合は、応募者の責任において事前に承認を得るなど適切な処理を行ってください。
6.応募者は応募内容の中に第三者が知的所有権の権利を有し、法的に保護されているアイデアを利用していないことを事前に確認してください。【事例】については事実に反しないことを約束してください。
7.応募内容の著作権に関しては、応募の時点で主催者に帰属するものとします。
8.応募内容アイデアの知的所有権は応募者に帰属します。
9.表彰される【事例部門】【アイデア部門】は公益社団法人NEXT VISIONホームページ、isee!運動ホームページで掲載するなど各種広報媒体にて広く公表します。
10.アイデアの事業化、商品化の場合の権利は主催者に帰属しますが、必要に応じて応募者と相談の上、決定します。
11.審査についての個別のお問い合わせには応じられません。
12.応募書類の返却は行いません。

主催等

主催：公益社団法人NEXT VISION
助成：日本財団

本コンテストに関するお問い合わせ

公益社団法人NEXT VISION
E-mail：visionpark@nextvision.or.jp

公益社団法人 NEXT VISION

isee!“Working Awards 2020” ＜応募用紙　事例部門（自薦応募用）＞

応募区分	１．個人応募　　２．団体応募		
フリガナ		フリガナ	
応募者名 （団体の場合：代表者名）		団体の場合：**団体名**	
応募者の職業 （団体の場合：代表者の職業）			
連絡先 （住所）			
（E-mail）		（電話番号）	
応募者のプロフィール （団体の場合：団体、メンバーのプロフィール）	・略歴 ・就労事例に関連したご経験など、ご自由にご記入ください。		
他のコンテスト等への応募の有無 ※過去に応募したもの、現在応募中のものをご記入ください。	有・無 主催者名（有の場合）		
アンケート 本コンテストを知った、<u>直接のきっかけ１つ</u>に丸印をつけてください。	１．公益社団法人 NEXT VISION のホームページ ２．医療・福祉関係機関・団体のホームページ又はメーリングリスト （機関・団体名：　　） ３．コンテストのチラシ （入手場所：　　） ４．後援・協力の企業・団体等を通じて （企業・団体名：　　） ５．その他：具体的にご記入ください （具体的にご記入ください：　　）		

【事例名】	
【事例の具体的内容】 ※事例について、できるだけ具体的にご記入ください。図や写真などを使用していただいても結構です。	
【事例のポイント】 ※事例の特徴や意義など、重要なポイントをご記入ください。	
【その他】 ※必要に応じて、自由にご記入ください。	

※応募用紙の枚数はA4用紙１枚から３枚を目安としてご記入ください。

※応募締切　令和元年10月31日（木）24時00分　（郵送の場合は10/31必着）

公益社団法人 NEXT VISION

isee!“Working Awards 2020” ＜応募用紙　事例部門（他薦応募用）＞

応募区分	1．個人応募　　2．団体応募		
フリガナ		フリガナ	
応募者名 （団体の場合：代表者名）		団体の場合：**団体名**	
応募者の職業 （団体の場合：代表者の職業）			
連絡先 （住所）			
（E-mail）		（電話番号）	
対象者の区分	1．視覚障害当事者　　2．支援者		
フリガナ		**対象者の職業**	
対象者名			
対象者のプロフィール （団体の場合：団体、メンバーのプロフィール）	・略歴 ・就労事例に関連したご経験など、ご自由にご記入ください。		
他のコンテスト等への応募の有無 ※過去に応募したもの、現在応募中のものをご記入ください。	有・無 主催者名（有の場合）		
アンケート 本コンテストを知った、<u>直接のきっかけ１つ</u>に丸印をつけてください。	1．公益社団法人 NEXT VISION のホームページ 2．医療・福祉関係機関・団体のホームページ又はメーリングリスト （機関・団体名：　　） 3．コンテストのチラシ （入手場所：　　） 4．後援・協力の企業・団体等を通じて （企業・団体名：　　） 5．その他：具体的にご記入ください （具体的にご記入ください：　　）		

【事例名】

【事例の具体的内容】

※事例について、できるだけ具体的にご記入ください。図や写真などを使用していただいても結構です。

【事例のポイント】

※事例の特徴や意義など、重要なポイントをご記入ください。

【その他】

※必要に応じて、自由にご記入ください。

※応募用紙の枚数はA4用紙１枚から３枚を目安としてご記入ください。

※応募締切　令和元年10月31日（木）24時00分　（郵送の場合は10/31必着）

公益社団法人 NEXT VISION

isee!“Working Awards 2020” ＜応募用紙　アイデア部門＞

応募区分	１．個人応募　　２．団体応募		
フリガナ		フリガナ	
応募者名 （団体の場合：代表者名）		団体の場合：**団体名**	
応募者の職業 （団体の場合：代表者の職業）			
連絡先 （住所）			
（E-mail）		（電話番号）	
応募者のプロフィール （団体の場合：団体、メンバーのプロフィール）	・略歴（ご自由にご記入ください。）		
他のコンテスト等への応募の有無 ※過去に応募したもの、現在応募中のものをご記入ください。	有・無 主催者名（有の場合）		
アンケート 本コンテストを知った、<u>直接のきっかけ１つ</u>に丸印をつけてください。	１．公益社団法人 NEXT VISION のホームページ ２．医療・福祉関係機関・団体のホームページ又はメーリングリスト （機関・団体名：　　） ３．コンテストのチラシ （入手場所：　　） ４．後援・協力の企業・団体等を通じて （企業・団体名：　　） ５．その他：具体的にご記入ください （具体的にご記入ください：　　）		

【アイデア名】
【アイデアの具体的内容】
【アイデアのポイント】※アイデアの独創性やニーズなど、特長を具体的にご記入ください。
【アイデアを実現するためのプラン】＊資金面、物資や人材面など、できるだけ具体的にプランをお書きください。
【その他】※必要に応じて、自由にご記入ください。

※応募用紙の枚数は A4 用紙 1 枚から３枚を目安としてご記入ください。

※応募締切　令和元年 10 月 31 日（木）24 時 00 分　（郵送の場合は 10/31 必着）

表彰状

isee!“Working Awards” 2020
事例部門
MIP賞
Most Inclusive Player

渡部　隆夫　殿

あなたは isee!“Working Awards”に応募され、周囲の協力の活動や関係性を構築した就労により、我々に様々な知識と深い考察を与えてくれました。これは視覚障害者の就労促進に寄与されるものであり、よってこれを賞します。

2020年2月16日
公益社団法人NEXT VISION
代表理事
三宅　養三

isee!運動
視覚障害者のホントを見よう
http://isee-movement.org/

表彰状

isee!“Working Awards” 2020
事例部門
MIP賞
Most Inclusive Player

森畑　裕子　殿

あなたは isee!“Working Awards”に応募され、周囲の協力の活動や関係性を構築した就労により、我々に様々な知識と深い考察を与えてくれました。これは視覚障害者の就労促進に寄与されるものであり、よってこれを賞します。

2020年2月16日
公益社団法人NEXT VISION
代表理事
三宅　養三

isee!運動
視覚障害者のホントを見よう
http://isee-movement.org/

表彰状

isee!“Working Awards” 2020
事例部門
MIP賞
Most Inclusive Player

清野　貴至　殿

あなたは isee!“Working Awards”に応募され、周囲の協力の活動や関係性を構築した就労により、我々に様々な知識と深い考察を与えてくれました。これは視覚障害者の就労促進に寄与されるものであり、よってこれを賞します。

2020年2月16日
公益社団法人NEXT VISION
代表理事
三宅　養三

isee!運動
視覚障害者のホントを見よう
http://isee-movement.org/

表彰状

isee!“Working Awards” 2020
事例部門
MSP賞
Most Strength Player

チームロービジョン　殿

あなたは isee!“Working Awards”に応募され、経験を強みとした就労により、我々に幅広い情報と大きな叡智を与えてくれました。これは視覚障害者の就労促進に寄与されるものであり、よってこれを賞します。

2020年2月16日
公益社団法人NEXT VISION
代表理事
三宅　養三

isee!運動
視覚障害者のホントを見よう
http://isee-movement.org/

表彰状

isee!“Working Awards” 2020
事例部門
MSP賞
Most Strength Player

ボーダレスビューティープロジェクト
花田　真寿美　殿
鈴木　さやか　殿

あなたは isee!“Working Awards”に応募され、経験を強みとした就労により、我々に幅広い情報と大きな叡智を与えてくれました。これは視覚障害者の就労促進に寄与されるものであり、よってこれを賞します。

2020年2月16日
公益社団法人NEXT VISION
代表理事
三宅　養三

isee!運動
視覚障害者のホントを見よう
http://isee-movement.org/

表彰状

isee!“Working Awards” 2020
事例部門

MEP賞

Most Effort Player

竹田　幸代　殿

あなたは isee!“Working Awards”に応募され、就労に対して継続的な努力・支援を重ねられ、視覚障害者の就労及び支援活動に新たな風を吹き込まれました。これは視覚障害者の就労に対する大きな貢献であり、よってこれを賞します。

2020年2月16日
公益社団法人NEXT VISION
代表理事
三宅　養三

isee!運動
視覚障害者のホントを見よう
http://isee-movement.org/

表彰状

isee!“Working Awards” 2020
事例部門
METP賞
Most Edgy Technology Player

杭迫　真奈美　殿

あなたは isee!“Working Awards”に応募され、最新の技術や知識を用いた就労により、我々に新しい知見を与えてくれました。これは視覚障害者の就労促進に寄与するものであり、よってこれを賞します。

2020年2月16日
公益社団法人NEXT VISION
代表理事
三宅　養三

isee!運動
視覚障害者のホントを見よう
http://isee-movement.org/

表彰状

isee!“Working Awards” 2020
アイデア部門
価値転換賞

赤星　里咲 殿

あなたは isee!“Working Awards”に応募され、障害を強みとする発想を転換したアイデアにより、障害の価値を見出してくださいました。これは視覚障害者の就労促進に寄与するものであり、よってこれを賞します。

2020年2月16日
公益社団法人NEXT VISION
代表理事
三宅　養三

isee!運動
視覚障害者のホントを見よう
http://isee-movement.org/

表彰状

isee!“Working Awards” 2020
アイデア部門
環境整備賞

（特非）視覚障害者パソコン
アシストネットワーク（SPAN）殿

あなたは isee!“Working Awards”に応募され、視覚障害者の就労に配慮した環境整備・啓蒙活動に関するアイデアを創造してくださいました。これは視覚障害者の就労促進に寄与するものであり、よってこれを賞します。

2020年2月16日
公益社団法人NEXT VISION
代表理事
三宅　養三

isee!運動
視覚障害者のホントを見よう
http://isee-movement.org/

表彰状

isee!“Working Awards” 2020
アイデア部門
ビジネスプラン賞

井上　直也 殿

あなたは isee!“Working Awards”に応募され、実現可能性とビジネス要素を含んだ視覚障害者の就労に関するアイデアを提案してくださいました。これは視覚障害者の就労促進に寄与するものであり、よってこれを賞します。

2020年2月16日
公益社団法人NEXT VISION
代表理事
三宅　養三

isee!運動
視覚障害者のホントを見よう
http://isee-movement.org/

入 選

isee!“Working Awards” 2020

事例部門

上原　晋 殿

あなたは isee!“Working Awards”に応募され、視覚障害者の就労支援に大きく貢献する事例を紹介してくださいました。これは視覚障害者の就労促進に寄与するものであり、よってこれを賞します。

2020年2月16日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅　養三

isee!運動

視覚障害者のホントを見よう

http://isee-movement.org/

入 選

isee!“Working Awards” 2020

事例部門

鈴木　佐知子 殿

あなたは isee!“Working Awards”に応募され、視覚障害者の就労支援に大きく貢献する事例を紹介してくださいました。これは視覚障害者の就労促進に寄与するものであり、よってこれを賞します。

2020年2月16日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅　養三

isee!運動

視覚障害者のホントを見よう

http://isee-movement.org/

入 選

isee!“Working Awards” 2020

事例部門

ブラインドオンラインサービス　殿

あなたは isee!“Working Awards”に応募され、視覚障害者の就労支援に大きく貢献する事例を紹介してくださいました。これは視覚障害者の就労促進に寄与するものであり、よってこれを賞します。

2020年2月16日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅　養三

isee!運動

視覚障害者のホントを見よう

http://isee-movement.org/

入 選

isee!“Working Awards” 2020

事例部門

前川　浩一　殿

あなたは isee!“Working Awards”に応募され、視覚障害者の就労支援に大きく貢献する事例を紹介してくださいました。これは視覚障害者の就労促進に寄与するものであり、よってこれを賞します。

2020年2月16日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅　養三

isee!運動

視覚障害者のホントを見よう

http://isee-movement.org/

入 選

isee!“Working Awards” 2020

事例部門

城谷　直人 殿

あなたは isee!“Working Awards”に応募され、視覚障害者の就労支援に大きく貢献する事例を紹介してくださいました。これは視覚障害者の就労促進に寄与するものであり、よってこれを賞します。

2020年2月16日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅　養三

isee!運動

視覚障害者のホントを見よう

http://isee-movement.org/

入 選

isee!“Working Awards” 2020

アイデア部門

武岡　恵美子 殿

あなたは isee!“Working Awards”に応募され、視覚障害者の就労支援に大きく貢献するアイデアを提案してくださいました。これは視覚障害者の就労促進に寄与するものであり、よってこれを賞します。

2020年2月16日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅　養三

isee!運動

視覚障害者のホントを見よう

http://isee-movement.org/

入 選

isee!“Working Awards” 2020

アイデア部門

大橋　正彦 殿

あなたは isee!“Working Awards”に応募され、視覚障害者の就労支援に大きく貢献するアイデアを提案してくださいました。これは視覚障害者の就労促進に寄与するものであり、よってこれを賞します。

2020年2月16日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅　養三

isee!運動

視覚障害者のホントを見よう

http://isee-movement.org/

入 選

isee!“Working Awards” 2020

アイデア部門

神田　信 殿

あなたは isee!“Working Awards”に応募され、視覚障害者の就労支援に大きく貢献するアイデアを提案してくださいました。これは視覚障害者の就労促進に寄与するものであり、よってこれを賞します。

2020年2月16日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅　養三

isee!運動

視覚障害者のホントを見よう

http://isee-movement.org/

入 選

isee!“Working Awards” 2020

アイデア部門

（有）オフィス Serendipity 殿

あなたは isee!“Working Awards”に応募され、視覚障害者の就労支援に大きく貢献するアイデアを提案してくださいました。これは視覚障害者の就労促進に寄与するものであり、よってこれを賞します。

2020年2月16日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅　養三

isee!運動

視覚障害者のホントを見よう

http://isee-movement.org/

入 選

isee!“Working Awards” 2020

アイデア部門

北村　直也 殿

あなたは isee!“Working Awards”に応募され、視覚障害者の就労支援に大きく貢献するアイデアを提案してくださいました。これは視覚障害者の就労促進に寄与するものであり、よってこれを賞します。

2020年2月16日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅　養三

isee!運動

視覚障害者のホントを見よう

http://isee-movement.org/

入 選

isee!“Working Awards” 2020

アイデア部門

木村　朱美 殿

あなたは isee!“Working Awards”に応募され、視覚障害者の就労支援に大きく貢献するアイデアを提案してくださいました。これは視覚障害者の就労促進に寄与するものであり、よってこれを賞します。

2020年2月16日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅　養三

isee!運動

視覚障害者のホントを見よう

http://isee-movement.org/

入 選

isee!“Working Awards” 2020

アイデア部門

ボーダレスビューティープロジェクト

花田　真寿美　殿

鈴木　さやか　殿

あなたは isee!“Working Awards”に応募され、視覚障害者の就労支援に大きく貢献するアイデアを提案してくださいました。これは視覚障害者の就労促進に寄与するものであり、よってこれを賞します。

2020年2月16日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅　養三

isee!運動

視覚障害者のホントを見よう

http://isee-movement.org/

入 選

isee!“Working Awards” 2020

アイデア部門

鈴木　さやか 殿

あなたは isee!“Working Awards”に応募され、視覚障害者の就労支援に大きく貢献するアイデアを提案してくださいました。これは視覚障害者の就労促進に寄与するものであり、よってこれを賞します。

2020年2月16日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅　養三

isee!運動

視覚障害者のホントを見よう

http://isee-movement.org/

感謝状

isee!“Working Awards” 2020

渡嘉敷 星司 殿

あなたは isee!“Working Awards”に応募され、視覚障害者の就労支援・啓蒙活動に貢献してくださいました。よってここに感謝の意を表します。

2020年2月16日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅　養三

isee!運動

視覚障害者のホントを見よう

http://isee-movement.org/

感謝状

isee!“Working Awards” 2020

宮本 忠幸 殿

あなたは isee!“Working Awards”に応募され、視覚障害者の就労支援・啓蒙活動に貢献してくださいました。よってここに感謝の意を表します。

2020年2月16日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅　養三

isee!運動

視覚障害者のホントを見よう

http://isee-movement.org/

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

isee! "Working Awards" 2020

主催：公益社団法人NEXT VISION
助成：日本財団

《isee!“Working Awards”とは》

公益社団法人NEXT VISIONでは、視覚障害者の社会価値の創出を目指す「isee! 運動」を行っています。

特に就労に注力した事業として、「isee!“Working Awards”」を実施しています。今年で４回目となる「isee!“Working Awards”」は、「就労」に焦点をあて、視覚障害者（見えない・見えにくい人）がどのように働いているのか【事例】、また、どうすれば働けるのか、あるいはどんな働き方ができるか【アイデア】を募集しました。

応募された【事例】と【アイデア】を審査員に選んでいただき、広く社会に発信することで、視覚障害者の社会参加、就労、ひいては社会の戦力として働き、社会の損失を軽減させることを目的としています。

http://isee-movement.org/

《isee!“Working Awards”2020 発表・表彰式》

■日時：2020年2月16日（日）13：30～15：30
■場所：神戸アイセンター　Vision Park（神戸市中央区港島南町2-1-8 2F）
■主催：公益社団法人 NEXT VISION
■助成：日本財団

《審　査　員》

※五十音順・（　）内は所属

大胡田　誠（社会福祉法人日本盲人会連合評議員）
樫原　伴子（神戸市保健福祉局障害福祉部　就労支援担当部長）
竹中　ナミ（社会福祉法人プロップ・ステーション理事長）
田中　伸一（神戸公共職業安定所　雇用対策部長）
津田　諭（社会福祉法人日本ライトハウス視覚障害リハビリテーションセンター顧問）
半澤　宏子（株式会社日立製作所　基礎研究センタ日立神戸ラボ）
福場　将太（医療法人風のすずらん会　精神科医）

《審　査　・　表　彰》

■事例部門

受賞者に「就業者＝Player」としての喜びを感じていただくこと、また、今後の就業モチベーション向上を目的としてMVP（Most Value Player）表彰の要素を含ませ、「isee! 運動」のi.s.eの3文字を使い「MIP賞」「MSP賞」「MEP賞」「METP賞」を設けました。

●MIP（Most Inclusive Player）賞
周囲の協力を活用した事例
●MSP（Most Strength Player）賞
経験を強みとした事例
●MEP（Most Effort Player）賞
継続的な努力を重ねた事例
●METP（Most Edgy Technology Player）賞
最新技術を活用した事例

■アイデア部門

●価値転換賞
障害（弱み）を強みとする発想転換のアイデア
●環境整備賞
ロービジョンの方の就業促進に配慮した環境整備・啓蒙活動に関するアイデア
●ビジネスプラン賞
実現可能性とビジネス要素を多く含んだアイデア

《 受賞者・事例部門 》

※エントリー順

●MIP 賞

渡部　隆夫（個人）

休むことなく研究職の継続を可能にした社内外のサポートと自己流の訓練・・・・・ 1

森畑　裕子（個人）

将来を考え見据えたサポートと環境づくり　高まる意欲とチャレンジできる環境に感謝 2

清野　貴至（個人）

視覚障害者のトリセツ(取扱説明書) -伝える前に伝わるようにするための工夫-・・・ 3

●MSP 賞

チームロービジョン（団体）

《チームロービジョン結成》個々の能力の結集で1+1+1を3以上の効率化・・・・・ 4

ボーダレスビューティープロジェクト（個人）

コミュニケーションに自信が持てる！　視覚障害者の方のためのビューティサポート 5

●MEP 賞

竹田　幸代（個人）

視覚障害者も消費者の一員。資格を生かして企業や行政に声を届けることが私の仕事！ 6

●METP 賞

杭迫　真奈美（個人）

かつて追い求めた光を失ってもくじけない。
Excelと読み上げソフトで新たな仕事を創出。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

●入選

上原　晋（個人）

自分仕様の小さなチョコレート屋起業で11年！・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

鈴木　佐知子（個人）

盲女美術家SACHIKOのスーパーかわいい絵画展企画事業
～アール・ブリュットの作品100点を、広く市民に提供～・・・・・・・・・・・・・ 9

ブラインドオンラインサービス（団体）

ブラインドオンラインサービスサロン　メーリングリストの運営・・・・・・・・・10

前川　浩一（個人）

既製品の組み合わせによる「会議用ロービジョンサポートデバイス」の業務運用・・11

城谷　直人（個人）

教わった電話番号からつながった社会復帰 ～当たり前ではなかった復職への流れ～ 12

《 受賞者・アイデア部門 》

※エントリー順

●価値転換賞

赤星　里咲（個人）

小学校での点字図書読み聞かせ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

●環境整備賞（団体）

(特非)視覚障害者パソコンアシストネットワーク (SPAN)

視覚障害者就労促進事業 ～全国どこでも質の高い職業訓練を～　・・・・・・・・・・14

●ビジネスプラン賞

井上　直也（個人）

遊ぶ・学ぶ支援する　視覚障害者向け総合情報サイト・・・・・・・・・・・・・・・・15

●入選

武岡　恵美子（個人）

香りの専門家（アロマテラピーメディカルアロマに関する事業）・・・・・・・・・・16

大橋　正彦（個人）

ビジョンパークサポーターズの結成！　モチベーションアップトークショー開催・・17

神田　信（個人）

視覚障害者の職域開拓と病院の法定雇用率　ピアカウンセリングを取り込み、八方良し18

㈲オフィス　Serendipity（団体）

心もほぐすヘルスキーパー！
メンタルコーチング技術で“ココロ”と“カラダ”をケアする人材育成プロジェクト！19

北村　直也（個人）

フラット解決！　クリアリープロポーズ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

木村　朱美（個人）

就労中の視覚障害者の可能性と力を最大限に引き出そう！・・・・・・・・・・・・・21

ボーダレスビューティープロジェクト（個人）

お出かけ前にメイク・ファッションチェックができるオンラインサポートシステム　22

鈴木　さやか（個人）

視覚障がい者の方のための化粧品開発　ユニバーサルデザインコスメ・・・・・・・23

就労事例部門

【就労事例部門】

MIP賞　渡部 隆夫

休むことなく研究職の継続を可能にした社内外のサポートと自己流の訓練

私は日立製作所で研究職を36年続けて来ました。網膜色素変性症により40歳頃から弱視に50歳頃からはほぼ全盲になりました。しかし休職せず半導体の設計、画像の恒久的保存、細胞の分光解析等に携わって来ました。支えてくれたのは社内外のサポートと自己流の訓練です。

弱視の頃、海外出張時に白杖を試したところ親切にされた事で心が軽くなりました。その後、社内外の視覚障害者との繋がりができ必要な事が明確になって行きました。会社の理解も早期に得ることができ居室等の安全対策の他、図表作成やバリアフリー化が進んでいない社内HPでの各種種続き等の補佐をする方も雇っていただきました。音声読み上げソフトによるPC操作の訓練も受けました。音声のみで文献や他人のプレゼンを理解するために朗読CDを就寝前に聴いたり通勤時に数値の短期記憶を向上する自己流の訓練も行いました。電車、バス、会社の近隣でサポートして下さる人も増えていきました。どなたが推薦して下さったのかは判りませんが見えなくなってからの仕事で日本写真学会から論文賞を頂く事もできました。

一度は諦めた趣味も少しづつ楽しめるようになりました。仲間が撮影した天体スペクトルの数値の分析により宇宙のダイナミックな姿を想像したり、盲人スキー教室に参加してゲレンデを滑る等です。

審査員コメント

中途失明の渡部さんが、大企業の研究者を続け、また余暇を充実させている姿は多くの視覚障害者に希望を与えるものだと確信します。「研究を継続する」という強い信念を持ち、通常のパソコンや歩行の訓練のみならず、渡部さん独自の訓練法には目からうろこが落ちました。中途視覚障害のためにそれまでのキャリアをあきらめる必要はないということを示しています。

渡部　隆夫　会社員（メーカーの研究職）

1958年　東京生まれ、61歳。網膜色素変性症により40歳頃から弱視、50歳頃からほぼ全盲。
1983年　慶應義塾大学　工学研究科 修士課程修了語に日立製作所中央研究所に入所。
1989年に米国Yale大学で修士号、1999年に慶応義塾大学より博士号(工学)を取得。
2000年に発明協会から山梨県知事賞を、2016年に日本写真学会から論文賞を受賞。
2018年に日立製作所を定年退職。現在、同社基礎研究センタ　シニア社員。

【就労事例部門】

MIP賞　森畑 裕子

将来を考え見据えたサポートと環境づくり
高まる意欲とチャレンジできる環境に感謝

松山市社会福祉協議会への入社時より、小学校との複合施設「いきがい交流センターしみず」の管理運営業務を担当し、高齢者のサロンや高齢者とその家族を対象とした講座の企画立案と実施をはじめ、複合施設である特色を活かし、1年生から6年生の総合的な学習の時間等で実施する異世代交流のコーディネートを行っています。そんな中、眼病の症状進行に伴い、職員として高齢者や児童を見守る立場にありながら、それが困難になってきていることで仕事に対する意欲と自信がなくなりかけた時、チャレンジし続けるモチベーション向上のきっかけをくれたのは、上司や同僚の理解と支えでした。現状だけでなく、5年後、10年後の想定できる状況と必要な環境整備を共に考えてくれました。現在では、前職と市社協の業務の中でこれまで私が培ってきた経験とスキルを活かし、小・中学校等での福祉体験学習の実践を行い、福祉教育から地域福祉に広げていくためのコーディネート業務に取り組んでいます。一職員の状況に対しての将来を見据えたサポートは、ときに「障がい」があることさえも忘れてしまうほどで、日々チャレンジをしながら仕事に励んでいます。

審査員コメント

過剰な支援は求めず必要な所だけ助けてもらう、障害名よりも個人を見て何が必要かを考える姿勢で、職場の理解と支援に力を得て、インクルーシブ社会の実現に向けて奔走する様子は、まさに羽が生えたようです。もちろんそこには森畑さんの、「こうしたい」という意思あればこそ。この事例は、だれもが働きやすい職場と自己実現の好例として広く共有したいと考えます。

森畑 裕子　社会福祉協議会地域福祉活動指導員

１９７４年東京都八丈島生まれ。現在は愛媛県在住。
１９８０年　網膜色素変性症を発症。
１９９６年より社団法人日本青年奉仕協会にてボランティア学習の関連事業を担当。
２００２年に社会福祉法人松山市社会福祉協議会に入社し地域支援課に勤務。
夫の支えのもと２０１７年に盲導犬を迎えて生活をスタート。

【就労事例部門】

MIP賞　清野 貴至

視覚障害者のトリセツ(取扱説明書)
-伝える前に伝わるようにするための工夫-

私が働いている会社は「おおよそ３年で人事異動」が通例となっています。つまり毎年、３分の１の人が入れ替わり、３年目には自分が新しい環境で働く事となるわけです。見た目で視覚に障害があるとわかるわけもないため人が入れ替わる度に自らの障害をアピールし理解を促すことが恒例行事となりそれ自体が大きな負担となっていました。そういった事情を上司に相談したところ「視覚障害の内容や配慮してほしいことをまとめたものを作っておくのはどうだろう」とアドバイスを貰いその上司の協力を得ながら「自身の取扱説明書」を作成しました。資料の中身は「そもそも視覚障害とはどのようなものか」といった概要を示したうえで「視野欠損や夜盲」のイメージイラストや「日常や業務上のやりとりで注意・配慮が必要なポイント」をまとめたものとなります。作った資料については、職場の管理者に展開し、管理者は各々の部下に周知をしてもらうようお願いしました。

結果、自分の人事異動や周囲のメンバーの異動のたびに「1から説明する」という場面が減り「障害についてしってもらう」ことの負担が減る事となりました。

審査員コメント

「視覚障害者の取説」という一見シンプルなアイデアですが、これには大きな意義を感じます。視覚障害者自身が、会社に対し、できないことや必要なことを伝えていくのはかなりの負担となることが少なくないので、これは、視覚障害者を雇用するすべての企業で実践してほしい工夫だと感じます。

自身の取り扱い説明書を作るというのはとても面白く実用的。「わかってもらえないのがつらい」と嘆く患者さんが多い心の医療でも役立ちそうな手法です。

清野 貴至　会社員

大阪府出身。高校時代に網膜色素変性症による視野障害で障害者手帳２級を交付される。
当時通っていた高校から大阪市立盲学校(現在の大阪北視覚支援学校)に編入。
その後、大学へ進学しNTT西日本に入社。現在は矯正視力0.1程度で岩度の視野狭窄の状態。

【就労事例部門】

MSP賞 チームロービジョン

《チームロービジョン結成》
個々の能力の結集で1+1+1を3以上の効率化

ICTの発達は、補助機器の発達を完全に凌駕する勢いで進行しています。我々視覚障害者に対応困難なシステムがスピードを上げて導入される中、中途障害の3人それぞれは、補助ソフトを利用した、ビジネスパソコンの訓練経験者であり、共通知識を持つ仲間です。私達は、《チームロービジョン》というグループを結成。それぞれの得意な部分も、苦手な部分も相互に補い合う形で業務に当たる試みを始めています。

社内SNSにもグループを作成し、社内全体に「視覚障害とはどんなものかを知って頂く活動」も始めました。個々の活動の成果や、ほほえましいエピソード、さらには、親切な方々への感謝の気持ち等を投稿するよう心がけています。
最近では、弊社社長からも、「いいね」を頂けるようになりました。

審査員コメント

三人組が持ちつ持たれつして同じ職場にいるのがとても微笑ましく、まさに文殊の知恵。会社にとっても視覚障害者を三人雇えば、苦労と孤独は３分の１、活躍は３倍だと示した事例です。
障害者同士だけで助け合うのではなく、自らの状況を他の社員に発信し、視覚障害者側から障害への理解と啓発を広げていく活動は、視覚障害者を雇用する企業へのあたたかいメッセージとしても有用です。

チームロービジョン（大橋正彦、福住美奈子、亀山洋）会社員

大橋正彦(東京勤務)　福住美奈子(東京勤務)　亀山洋(大阪勤務)
株式会社USEN入社以来、3名は相互に連絡を取りながら、
社内システム対応の情報交換をしていたが、
平成30年、3名同部署への配属を契機に、1チームとして活動を開始。

【就労事例部門】

MSP賞
ボーダレスビューティープロジェクト
～視覚障がい者の方のメイク、ファッションサポート～

コミュニケーションに自信が持てる!
視覚障害者の方のためのビューティサポート

外見をブラシュアップし美しくなることは、第一印象が良くなるだけでなく内面も前向きな気持ちになり自信を持って日々を楽しむこと、すなわちコミュニケーションの活性化につながります。日常をより一層明るく過ごしていただくことを目的としています。

主にパーソナルカラー診断、メイクレッスン、ウォーキングレッスン、写真の撮られ方レッスン、洋服や化粧品のショッピング同行を行っています。視覚に障がいがある、ないに関わらず「ビューティー」を楽しむ。ボーダレスに美容を楽しめる社会を実現したいという想いから、それぞれの分野でビューティーを専門としている2人でスタートしたプロジェクトです。

審査員コメント

視覚障害者が、自分を磨くこと、自分に自信をもってひびを生きることを可能にする素晴らしい取り組みだと思います。

きれいでいたいという気持ちが当事者の心の持ちようや行動にどれだけ良い影響をあたえうるかということを示しています。似合う色や洋服を身に着けていきいきと、さっそうと街に出ていく皆さんの様子を想像し、うれしくなります。

花田 真寿美・鈴木 さやか　ビューティ―アドバイザー

花田真寿美/Precious one 代表/アスリートビューティーアドバイザー®
鈴木さやか/BEAUTY MAP代表。トータルビューティーアドバイザー/パーソナルカラーアナリスト
ボーダレスビューティープロジェクトとして2018年から活動を行っている。視覚に障がいがあるパラアスリートを始め、視覚に障がいがある一般の方のビューティーサポートも男女問わず行っている。
個人のお客さまのサポートだけでなく、企業における研修、ワークショップの開催も行っている。

【就労事例部門】

MEP賞　竹田 幸代

視覚障害者も消費者の一員。資格を生かして企業や行政に声を届けることが私の仕事!

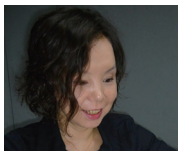
視覚障害リハビリ施設利用中、見えない・見えにくい人には使える商品が限られていること、得られる情報が少ないことに衝撃を受け、視覚障害者と行政・事業者との橋渡しになるべく、消費生活アドバイザー（現：内閣総理大臣および経済産業大臣認定）資格取得を決意。重度視覚障害者受験の環境整備を求め、2006年資格取得。

「障がい者問題は消費者問題の一部」の視点で、大阪府の消費生活事業に参画、所属するボランティア団体で視覚障害者視点の利用しやすさや「もっとやさしいまちにしたいねん！」と声掛けをアピールするなど、広く府民の方への啓発を始める。有資格者の強みを生かし事業者とも連携。住友生命では顧客マニュアルの改善や郵便物に音声コード導入等、日清製粉はグループサイトのリニューアル中。見えない・見えにくい方々にも参加していただき、等身大の視覚障害者の声を事業に反映していただいている。

セミナーや会議等は単独で出席しているが、、障害者が1人加わることで、主催者だけでなく、参加者の作成資料や発言にも視覚障害のある人にとってはどうか、という視点が自然発生、社会に出ていくことの効能を実感しつつ、消費者市民として社会の中で働いています！

審査員コメント

消費生活アドバイザーとして、視覚障害者としての経験を踏まえて具体的に顧客対応マニュアルの改善、Webアクセシビリティなどを企業や行政にサービスの改善提案をすることは大変効果的であると思います。製品やサービスを受ける側の視点と両社のハブとしての役割がいかに重要であるかということを示しています。これからも、どんどん社会をよくしていっていただきたいと大きな期待をしています。



竹田　幸代　消費生活アドバイザー

中学入学後の検診で網膜色素変性症であること、患者の多くが失職し困窮していること、将来に備えるよう告げられる。自営業等を経て30代後半で障害者手帳取得。きんきビジョンサポート、(公財)NACS等に所属、スマートサイト「大阪あいねっと」や消費生活関連の研究会等に参加、社会福祉法人に勤務。

【就労事例部門】

METP賞　杭迫 真奈美

かつて追い求めた光を失ってもくじけない。Excelと読み上げソフトで新たな仕事を創出。

私の仕事は特殊な光学設計ソフトでレンズを研究開発する専門職でした。光や色を追求してきた私の眼がそれらを失ってしまったのは運命のいたずらでしょうか。網膜色素変性症が進行して5年前には視覚障害1級に認定され、今は盲導犬の助けを借りて往復三時間の道のりを通勤しています。

見えなくなってからも光学設計ソフトに対応する複数の読み上げソフトを駆使しながら、年1～2件の特許を取得し続けることができたのは聴覚情報を通して脳内に新機軸をイメージ化することができたからでした。しかし、2017年にWindows10が導入されると、光学設計ソフトに対応する読み上げソフトは皆無になってしまいました。長年打ち込んできた専門分野とのバイパスが途切れてしまったことは、まさに手足をもがれる思いでしたが、私は読み上げに対応する汎用ソフトを使ってできる新たな仕事を必死で探し始めました。試行錯誤を経て最後に「これだ」と思ったのはデータサイエンスの仕事でした。ビッグデータを扱うだけがデータサイエンスではない。むしろ会社で日常的に扱うデータ量はExcelなど汎用ソフトで十分に扱える大きさなのです。会社のバックアップも得ながら私はいま、無色の（ただの数字）情報を、色つきの（役に立つ）情報に変える仕事をしています。

審査員コメント

専門のレンズ設計の仕事だけでなく、ご自分で会社の業務を見渡して、Excelを使った統計処理の仕事を確立していかれていることは素晴らしいことだと思います。

視覚障害者でもどんな仕事ができるか、どうすればできるかを自ら探求し実践し続けていらっしゃる杭迫さんの姿勢にとても感銘を受けました。パイオニアとしての杭迫さんの活躍を応援しています！

杭迫 真奈美　会社員

奈良女子大学理学部物理学科卒。ミノルタ株式会社入社。社内研究者としてレンズ設計に従事。取得特許は約30件。日本光学会で光設計特別賞や奨励賞を受賞。現在はコニカミノルタ株式会社開発統括本部に勤務。

【就労事例部門】

入選　上原 晋

自分仕様の小さなチョコレート屋起業で11年!

　ショコラティエは何十種類かある原料用チョコレートを調合し溶かしテンパリングという技術を用いて様々な形に固め商品にする仕事。早朝自宅から15分歩いて出勤し、製造は全て一人で行います。妻が開店準備し接客販売をしますが、忙しければ私も接客します。品数は20アイテム前後で、年間を通して製造販売しております。チョコレートは視覚以外の感覚を活かし頭で味を想像する感覚重視の手仕事ですので私には夢であり天職でした。目が良い人が考えて作られたシステムではなく、目が悪い私がゼロから構築する自分仕様のシステムですから、全てが自分に扱いやすく、他人を気にせず思い通りチョコレート製造が行えます。コンタクトレンズの紛失や病状の悪化などで運転ができなくても、店を自宅や駅など徒歩圏内に設定したので問題はなく、四六時中妻も一緒ですから安心して家族経営ができます。
　誠実なもの作りができれば、品物がお客様を呼んでくれます。毎日大好きなチョコレートに包まれ仕事ができる今が幸せです。話せるチョコ屋というコンセプトで出張チョコ付き講話といった講演活動を延べ20回以上開催(勇気のでるチョコばなし)。

審査員コメント

　事業運営と自身の視覚障害との関連を冷静に分析して対応方法を生み出す過程が現実的であり、他の中途視覚障害者への参考となります。
　自分の好きな仕事をみつけ、自分なりの働き方を模索し、丁寧なモノづくりを徹底する。障がいの有無にかかわらず、上原さんの物語は、困難の中にあって道を模索し続けるすべての人にとって一つのロールモデルとなると思います。

上原 晋(すすむ) 手づくりショコラ工房アカリチョコレートオーナー
先天性強度近視で大人になったら手術しないと失明すると宣告された小学生時代。
夢は目が良くなる事と大好きなチョコレートが毎日食べられるお菓子屋さん。
見えにくいまま大人になり21歳の手術で失明は防げたが左目の視力がゼロに。
32歳の角膜移植成功で光が戻り脱サラし夢に向かい修業開始。2008起業。

【就労事例部門】

入選　鈴木　佐知子

盲女美術家SACHIKOのスーパーかわいい絵画展企画事業
～アール・ブリュットの作品100点を、広く市民に提供～

知的・精神・視覚などの障害をもつアーティストを「アール・ブリュット」と呼びます。

当研究室の仕事は、1.コンサルティング及び企画・展示、開発業務。2.マーケティングリサーチ業務が主な内容です。その中から特に昨年好評だったユニバーサルアート展示企画プロジェクト「盲女美術家SACHIKOのスーパーかわいい絵画展2018」について、説明します。これまでのキャリアを発揮し、「福祉と経済」を紡ぐ「アート」を健常者との協働で障害者就労及び芸術活動普及をコンセプトに、最終的には、家庭や職場にアートを届けることを目的にした作品展示企画事業です。「パシフィコ横浜国際展示場」「赤レンガ倉庫展示場」等の集客数が多い場所に期間限定の店舗を開設して展示販売をしました。

写真１　パシフィコ横浜

写真２　あおばのギャラリー

写真３　赤レンガ倉庫

絵画展の会場は、地元の人が集まりやすい場所を選びました。これは、画廊やギャラリーにこだわらず、地域の人々が気軽に足を運べるようにショッピングモールなどでも、展覧会を開く試みをするためです。また、展示作品は、「スーパーかわいい絵画」というタイトル通り、モチーフに動物やお花等、また一般的な日本家屋のスケールに配慮した極小サイズのものを用意するなど、質にはこだわりつつも提供の仕方を工夫しています。さらに、オリジナル作品にもかかわらず、安価な価格中心に設定し、リピーター、コレクターになってもらえる要素を含んでいます。

審査員コメント

美術の専門家であり視覚障害当事者である鈴木さんが、障害者理解などの福祉の文脈ではなくアートビジネスの文脈で、日本のアール・ブリュットをけん引している姿にとても感銘を受けました。

障害をもった芸術家の作品が市場に供給され、経済的価値が発生するというのは、従来にない仕事であると思います。こうした方の作品を扱う事業者が増えることが必要で、事業として成り立っていくよう期待しています。

鈴木 佐知子　デザイナー・教師・造形作家

出身：1999東京学芸大学藝術教育学科博士課程。画歴：神奈川県展協会賞、和歌山洋画100大賞、アメリカ大賞(ブロンクス美術館)、2011セーラムG(ＮＹ)、2014Gサテリット(Paris)。
所属会員：日本デザイン学会、大学美術教育学会、日本美術教育連合ＩＮＳＥＡ(国際美術教育連合)、モダンアート協会。

【就労事例部門】

入選
ブラインドオンラインサービス

ブラインドオンラインサービスサロン メーリングリストの運営

ブラインドオンラインサロンメーリングリストは、パソコンやスマートフォンの音声利用に詳しい、全国の視覚障害当事者とインターネットで連絡を取り合って運営しています。現在の講師人数は、代表を含め11名、購読者人数は23名です（2019年12月時点）。講師メンバーのうち晴眼は代表1名で、他の方は視覚障害当事者です。

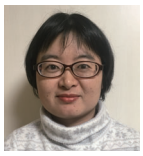
パソコンはWindowsとMac、スマートフォンはiPhone、iPad、Android。スクリーンリーダーはPC-Talker、NVDA、VoiceOver、トークバックなど。ガラケー操作についてもauとdocomoの二機種対応可能です。

それだけでなく、メーリングリストにはメールマガジンとしての機能も持たせるよう、読み物として新しい、面白い内容を心がけて毎日配信を目標にしています。新しいソフトや電子機器を試してみる話、高価な支援機器のうち講師が所有している物についての紹介や裏話、講師メンバーの特色ある活動の紹介など。購読者からは質問の投稿も受け付けています。

詳しくは代表野々垣まで、
メールアドレスminakonono3519@gmail.com
または電話090-7186-4265にて、お問い合わせ下さい。

審査員コメント

パソコン、スマホを活用し、在宅でメールを書くことで収入につなげるという取り組みが現実的で汎用性があると評価できます。



ブラインドオンラインサービス　代表　野々垣美名子

ブラインドオンラインサービスは2018年9月15日にサービス開始。インターネットで知り合った、パソコンやスマートフォンの音声利用に詳しい、全国の視覚障害当事者と連絡を取り合い、有償での遠隔相談やサポートのサービスを開始。代表は東京都八王子市在住。

【就労事例部門】

入選　前川 浩一

既製品の組み合わせによる「会議用ロービジョンサポートデバイス」の業務運用

会社での会議時に、大型テレビやプロジェクターで投影されるExcel等の会議資料が良く見えず、大変困っておりました。
試行錯誤の結果、下記既製品を組み合わせ、会議時に使用しております。
◆①コンパクトデジタルカメラ（SONY製DSC-RX100M7）
◆②モバイルモニター(EVICIV製15.6インチ4Kモバイルモニター)
◆③HDMI　micro⇔HDMI（標準）ケーブル（SONY製DLC-HEU-30A）
◆④ミニ三脚（SONY製シューティンググリップ　VCT-SGR1）
◆⑤三脚アダプター（マンフロット製スマホ用三脚アダプターMCLAMP）

これは、「isee!Working Awards 2019」のアイデア部門で「入選」させていただいた「タブレット型ロービジョンサポートデバイス」に近いものを、既製品の組み合わせにより実現したものであり、技術的な問題は概ね解決できたと考えております。
今後は患者・眼科医の先生方・メーカーの三位一体の議論の中から、「会議用」にとどまらない理想的な新デバイスを「NEXT VISION」発で具体化し、広く世界の「ロービジョンケア」に貢献することを切望します。

審査員コメント

既製品の組み合わせで会議資料が見づらいという問題を解決された前川さんの創意工夫に敬服いたします。ロービジョンや高齢者など、プレゼンテーション資料が見えづらく困っている方々は少なくないはずなので、このようなすぐに実現できる手法を広くアピールする意義は大きいと感じます。

前川　浩一　会社員

1999年早稲田大学卒。事業会社で経理業務に従事。「iPad Pro」を拡大読書器代わりに使用。視覚障害2級（錐体杆体ジストロフィー）。

【就労事例部門】

入選　城谷 直人

教わった電話番号からつながった社会復帰
～当たり前ではなかった復職への流れ～

退院する時に、とにかくここに電話してみてと一看護師から渡された電話番号がきっかけとなり支援につながり社会復帰し復職した事例。

視覚に障害を負って、できないことや諦めることばかりの中、これからの人生をどうやって生きて行けばいいのか悩み、何の知識もなかった筆者が看護師から教わった電話番号へ電話をしたことがきっかけで、支援団体につながることができ、支援やサポートを知って、地域での訓練を受け、さらに国立障害者リハビリテーションセンターに入所し機能訓練を修了し復職へとつながりました。

これが中途失明視覚障害者の当たり前の社会復帰の流れだと考えていた筆者が、社会復帰していろいろな方と関わる中で、当事者が支援施設につながるまでに数年かかる方がおられることも知りました。

絶望し、会社を辞め、1度閉じこもってしまうとそこからでてくるには長い時間がかかります。筆者もそうなっていたかもしれません。

現在は、講座やイベントやヨガクラスを開催してつながりを広める為の場作りや自分達のことを知ってもらう活動を行っております。
閉じこもる方や悲しむ方をすこしでも少なくする為に。

審査員コメント

適切なタイミングで適切な支援団体につながることで、生き生きと社会生活を続けられるのだということを証明してくれる素晴らしい事例です。医療関係者による視覚リハの情報提供がいかに重要なのかを改めて考えさせられました。

人とつながっていく、情報を得て発信していくという心構えは全ての障害者に重要なこと。さあこれからというタイミングで今度は耳が聴こえなくなった時、そこでいじけなかったことに感動しました。

城谷 直人　会社員

1992年4月ヒロセ株式会社入社。設計、施工管理、営業を経験。
2011年2月血管新生緑内障と診断され手術を繰り返すが2012年5月全盲となる。
2012年9月より3月まで国立障害者リハビリテーションセンターに入所。機能訓練を修了。
2013年4月復職。現在は晴眼者時代の知識と経験と人脈を生かし営業補助として勤務の傍ら、ＮＰＯ法人江戸川区視覚障害者福祉協会にて常任理事、視覚障害者向けヨガクラスを開催している一般社団法人チャレンジド・ヨガにて理事として活動中。

アイデア部門

【アイデア部門】

価値転換賞 赤星 里咲

小学校での点字図書読み聞かせ

夏休みの自由研究に点字のことを調べようと思い、初めてアイセンターへ行きました。
そこでたくさんの点字の本があることを知りました。
私の通う小学校では、絵本の読み聞かせやお話をする「おはなしボックス」という時間があります。
先生やPTAの方がいつも読んでくださります。
学校の図書室に点字の本があれば、視覚障害者の方も読み聞かせができて、私たちは点字のことや視覚障害についても知ることができると思いました。
視覚障害があっても、ラベルを点字にしたり工夫すれば小学校の図書室で働くこともできると思います。
ぜひ図書室のお仕事をしてみてください。

審査員コメント

チャレンジド当事者から、当事者にとって必要なことを学ぶ重要性と、当事者がその経験値を生かして職業に就くことの意義に気づかれ、共に生きる人としての立場で、温かい言葉で素直に書かれた文章に、感銘を受けました。
先入観がなく心の吸収力も高い子供の頃に、障害を持つ職員と触れ合うことは障害者への理解が自然に習得でき、共生社会を促進させる最もよい方法です。

赤星 里咲　小学生
神戸市立御影北小学校3年生

【アイデア部門】

環境整備賞
特定非営利活動法人視覚障害者
パソコンアシストネットワーク(SPAN)

視覚障害者就労促進事業
～全国どこでも質の高い職業訓練を～

全国どこでも視覚障害者に対するICT関係の質の高い職業訓練が公的な形で実施されるようになることを目的に、SPANが仙台、札幌、そして神戸で実施し、今年度も福岡で実施予定の事業です。具体的には、関係者を対象としたフォーラムと支援者を対象としたセミナーを開催した後、2日間(10時間)の職業講習を3回実施ました。

特に重視したのが「在職者への支援」と「高度な職業スキル」です。これらは、東京などの地域以外ではあまり実施されていないため、多くの視覚障害者が就労の現場で苦労しているほか、職場の上司・同僚の方も、職業スキル向上の方法や、担当させる業務などで戸惑いを感じているケースも少なくないと思います。そのため、職業訓練に対する視覚障害当事者のニーズは非常に高く、事業実施の中でも強い手ごたえを感じました。

充実した公的な職業訓練体制を作ることにより視覚障害者の職業スキルが向上することで、視覚障害者の就労は必ず進むと確信しています。

なお、この事業は、寄付などによる多くの方からの支援、各地域の団体の協力、そして、SPANが長年にわたり培った経験とスキルにより実現できました。

審査員コメント

北神さんのアイデアにもろ手を挙げて賛成です！

在職者支援はまだまだ一部でしか行われていません。さまざまな職場で即応できる技術力と、当事者の置かれている状況に対する適切な判断、そして上司や人事との交渉力が要求されます。何よりも当事者の就労がよりよいものになる方向で動かなければならない。全国どこでも質の高い職業訓練が受けられるようにという取組みは素晴らしい。

特定非営利活動法人 視覚障害者パソコンアシストネットワーク(SPAN)
理事長　北神あきら

1999年の創立以来、視覚障害者および支援者を対象としたパソコン講習を実施しているほか、在職者訓練やジョブコーチ支援などの視覚障害者への就労支援活動を行っている。また、最新技術の普及活動やWebサイトによる情報発信も行っている。

【アイデア部門】

ビジネスプラン賞　井上直也

遊ぶ・学ぶ支援する
視覚障害者向け総合情報サイト

資格障害者当事者用スマートサイト(仮)は視覚障害者向けの情報をまとめたウェブページです。都道府県ごとに行われているスマートサイトと同じ情報+学ぶ遊ぶ学習するなど日本各地で行われている視覚障害者向けのイベントのデータベースを作ります。

当事者団体や支援団体が主催するセミナーやカルチャースクール、スポーツ体験会など日本各地で様々なイベントが行われています。

イベントの情報はウェブページやメーリングリストなど様々なところでお知らせがあるものの、イベント終了後のレポートなどを見てイベントが開催されていたことに気づくことも少なくありません。

視覚障害者は情報障害者と言われるように情報の収集が大変です。

そこで、日本各地で行われる視覚障害者向けのイベントを、ひとまとめにして都道府県別で一括表示するページが必要だと考えました。

また、イベントの情報だけではなく、手帳取得のススメや白杖の基礎知識や歩行訓練、家族の方への情報、教育相談窓口等まさに、資格障害者総合情報サイトになれば良いと提案いたしました。

目のことで困った時はもちろんですが週末はどこへ行こうかななんて時まで様々な人に見てもらえるようなサイトが必要だと考えました。

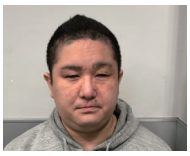
視覚障害を正しく世の中に伝えると言う事は、視覚障害者が現在以上に外に出ることが必要です。

そのためにも、いつ・どこで・何があるのかをまとめた情報源があれば便利です。
中途で視覚障害になった後に社会復帰した方へのアンケートによれば約2年から3年自宅にヒキコモったと言うデータが数年前に発表されていました。

この社会復帰までの時間を少しでも縮めること、表に出続けること。今まで通り彩りのある生活を取り戻すことのきっかけを作れるような総合情報サイトが不可欠です。

審査員コメント

提案は具体的で、視覚障がい者のニーズを的確にとらえています。見えにくさを感じる当事者や家族、支援者、職場にとって灯台のような役割を果たしてくれる技術になると確信しています。医療・福祉・教育の情報提供から都道府県別のイベント情報まで総合的にロービジョン者の社会参加に必要な情報が確実に伝えられる可能性のあるプランにとても期待しています。



井上 直也　MDSiサポート代表

公益社団法人 東京都盲人福祉協会 青年部理事・認定NPOタートルの会・認定NPO視覚障害者パソコンアシストネットワーク SPAN・片目失明者友の会・パソコンボランティア青梅

1983年生まれ。2001年に東京都立第五商業高等学校 商業科 卒業後、企業で8年間営業職を務め、4年間飲食店で勤務。2014年に両眼とも網膜剥離の診断を受け、右目は失明していたことがわかる。現在は両眼ともに全盲。2016年に視覚障害者向けのiOSのプライベートレッスンを開始し、同年MDSiサポートを開業。現在は、iOSを用いたデジタルロービジョンケアを行っている。

【アイデア部門】

入選 武岡 恵美子

香りの専門家（アロマテラピー メディカルアロマに関する事業）

私がご提案するのは、香りの専門家として、アロマオイル（植物精油）を使用したボディトリートメントや、またアロマオイルの適切かつ安全な使用方法や様々な生活シーンにおけるアロマの活用法のご提案を行うセラピストとして活躍することです。
超高齢化、ストレスの多い生活、このような状況の現在の日本において、いかにして心身ともに健やかに暮らしていくかという事は多くの方々の関心事ではないでしょうか？
アロマテラピーは芳香療法ともいい、病気の予防、症状の緩和、心身の不調の改善、リラクゼーションや美容など様々な場面で活用されています。
視覚障害者といえば、鍼灸あん摩師としてご活躍される方が多いかと思いますが、今後健康に関するニーズが高まる中で、それ以外の視覚障害者もアロマセラピストとして多くの方々の健康に貢献できる活躍の場があると思います。

審査員コメント

鍼灸あんま師の技術に加え、アロマを活用した事業展開は、一般顧客のさらなる獲得を可能にし、増収につながるものと評価します。視覚障害者にも通えるスクールの情報や、見えなくてもできるエッセンシャルオイルの調合方法など、様々な情報を発信していただき、多くの視覚障害者が、仕事として、また自分磨きの手段として、アロマテラピーに取り組める環境を実現していただきたいと期待しています。

武岡 恵美子 主婦

27歳の時に、網膜色素変性症と診断されました。結婚後は夫の仕事を手伝いながら、2人の娘の育児をしています。アロマテラピーは以前から興味がありましたが、さらに知識を深めたいと思い、現在アロマスクールにてアロマについて学んでいます。

【アイデア部門】

入選 大橋 正彦

ビジョンパークサポーターズの結成!
モチベーションアップトークショー開催

　憐みや優しさでなく、支える人々自身に得る物がある。そんな価値観を広く一般の方々に持っていただけたら・・・ビジョンパークを支える、スタッフ＆サポーターの方々にそんな価値観を発信して頂く事をご提案いたします。それは、視覚障害者の苦労や悩みの話題では無く、あくまでもサポーターズ自身の得たもの、自分や家族を輝かせてくれた気づきやエピソードを、トークショーとして、ビジョンパークイベントの形で開催します。

　メインフューチャーされるのは視覚障害者を支える支援者の方々。我々視覚障害当事者は、イベントをサポートスル応援者になり、一般の健常者の方々に、『視覚障害者と接する事のメリット』という、新しい価値観の醸成と啓発に繋げる事が出来ればと考えます。

審査員コメント

　視覚障害者の社会参加や就労がうまくいくかどうかの決め手は、身近に障害を理解し、適切なサポートをしてくれる仲間の存在だと思います。その意味で、このような支援者が得た気づきや発見を積極的に社会に発信することは、社会変革の手段としてとても有効だと考えます。

大橋 正彦 会社員

1962年東京生まれ。40歳を過ぎたころ緑内障の診断を受ける。
職場では事務職として勤務する傍ら、
視覚障害者の就労問題に取り組む《認定NPO法人タートル》に参加。

【アイデア部門】

入選 神田　信

視覚障害者の職域開拓と病院の法定雇用率 ピアカウンセリングを取り込み、八方良し

病院の眼科に、視覚障害当事者をピアカウンセリングのできる事務職、もしくは、従業員向けマッサージ等のヘルスキーパーとして雇用し、視覚障害の患者さんに寄り添い悩みを聞くピアカウンセリングが行えるとロービジョンケアがより充実するように思う。眼科にて「障害告知」を受けた時のショックや絶望感は大きい。正しい知識と訓練を受けた視覚障害者が患者さんに寄り添うことにより、ふさぎ込むことなく病気に向き合い、必要な情報と正しい知識を得るロービジョンケアに取組めるように思う。このように患者さんにとって障害告知を受けた時、もしくはその後に同じ様な境遇の視覚障害者に出会え、見えなくてもやって行けることを知るメリットは大きい。説得力が違うはずである。一方で、ピアカウンセリングを行う視覚障害者は多いが、職業としている人は極稀である。また、正しい知識を持たずに行うピアカウンセリングは時に患者さんにマイナスに影響しかねない。病院が視覚障害者を事務職やヘルスキーパーと兼務でピアカウンセリングの教育受けた（教育する）障害者を雇用することは、障害者法定雇用率向上や、障害者の地域での就労にも繋がる。従業員においても身近に視覚障害者がいることは、患者さんへの応対にも効果が期待できる。

審査員コメント

ピアサポーターの存在は心の医療でも注目されています。このアイデアの注目すべきところは、視覚障害者のピアカウンセリング＋何か別の仕事を提案しているところです。現実にはピアカウンセリングだけでは職業として成り立ちづらく、ピアカウンセリングのスキルに、事務職員としてのスキルやヘルスキーパーとしてのスキルを組み合わせることで、その方ならではの強みを身に着けることにつながるものと思います。

神田　信　株式会社三城/認定NPO法人タートル他

網膜色素変性症 障害者手帳2級の当事者。メガネの三城に勤務。視覚障害の就労を考える会タートルやJRPSの本部と神奈川で活動し、日視連では、弱視問題対策部会と移動に関する委員会に参画している。このコンテストを通じて、少しでも視覚障害者のQOL向上に寄与できないかと考えている。

【アイデア部門】

入選 ㈲オフィス　Serendipity

心もほぐすヘルスキーパー!

メンタルコーチング技術で“ココロ”と“カラダ”をケアする人材育成プロジェクト!

近年、多くの企業・団体が職員のメンタルケアに頭を悩ませている「職員のメンタル問題」。素人の人事担当者が何の知識もないまま担当していたり、慌てて社内に開設したカウンセリングルームを誰も利用していないなど、対策が空振りになることも少なくありません。

職場の「保健室の先生」のような“身近な存在”であるヘルス・キーパーがコーチング技術を習得し、体だけでなく心のコリもほぐしてくれる。「コーチングを受ける」ということに馴染みがない、または抵抗があるという人も、体をほぐしてもらいながらであれば気軽に受けることができます。

「メンタルコーチング技術を持ったヘルス・キーパー」が守る「職員の心身の健康」。それによってもたらされる「組織全体の生産性の向上」。これは企業・団体にも大きなメリットをもたらします。ヘルス・キーパーの存在が組織運営において、欠くことのできない重要なものになります。こうしたヘルスキーパーの社会的価値の向上に伴って、今まで導入をためらっていた企業がヘルス・キーパーを採用するなど視覚障害を持つ人々の雇用の促進にもつながると考えています。

国際コーチ連盟プロフェッショナル認定コーチの資格を持つ鱸（スズキ）が、医療者や教育者にコーチングを伝授してきたこれまでの経験を「ヘルス・キーパーに特化した形」にアレンジし、それを習得してもらうことで「職員のメンタルケアによる職場環境の改善」と「ヘルス・キーパーの社会的価値の向上」を目指すプロジェクトです。

審査員コメント

ご自身の患者経験に基づき、心身両面のケアを行うメンタルコーチング技術を習得したヘルス・キーパーの育成および派遣の事業アイディアには具体性と説得力があります。心に対するアプローチと体に対するアプローチの相乗効果で、その社員の心身の健康のみならず企業の生産性向上にも貢献できる大きな可能性のあるプロジェクトにとても期待しています！

㈲オフィス　Serendipity　代表取締役　鱸　伸子

通算9年米国と英国で生活した帰国子女。慶應義塾大学文学部卒。30代で弱視になり、コーチングと出会い、大きな転機を迎える。コーチングを習得する事で2004年より有限会社オフィス Serendipityを創立。コーチングの国際ライセンスも取得し、医療・教育に特化したコーチとして活動中。

【アイデア部門】

入選　北村　直也

フラット解決!
クリアリープロポーズ

視覚に障害がある場合、就労時に困難な作業がいくつかはっせいすることがあります。

しかし、それらは困難であって、100％不可能ではないことがほとんどです。とくにITが急速に発達している現在では、あらゆる視覚情報をセンサーやカメラで補ったり、パソコンの文字などは点字・音声に変換することが容易になりました。

そこで、視覚障害により困難な作業を、既存のサービス・新規開発で補う専門チームを発足します。

難しいことを難しいままにしておくよりも、少しでも楽に作業ができたり、逆に少しやることは増えるけど不可能だったことが可能になるのは大切なことでしょう。その実現のためにITと視覚障害に精通したメンバーが事業内容や実現したいこと・具体的な困りごとをヒアリングし、既存のサービスをリサーチしたうえで導入・新規開発の提案をさせていただきます。

また、現在では視覚障害者がIT分野に参入する流れが多く見受けられており、当事者のヒアリングとともに、それらの知識を持つ視覚障害者に案件を発注する、一石二鳥の効果も期待しています。

審査員コメント

近年、視覚障害のあるタレント、芸人等が活躍していますが、声優としての活躍の場を自ら開拓した事例です。ICTを活用して台本を音声化し、その開発方法、経費等を分析し、実施に向けての手順を明らかにしています。やりたいことを実現する方法を示唆した事案であると評価できます。

北村 直也　フリーランス声優・作家・エンジニア

声優。視覚障害者に声優は不可能だと言われ、ITを使った代替手段を確立。ただし、確立した手段を伝えていく中で、ITに精通していた自分だから提案できたものだと気づき、ITの知識を多くの人に役立てるため今回の提案にいたる。

【アイデア部門】

入選　木村　朱美

就労中の視覚障害者の可能性と力を最大限に引き出そう!

自分の就活体験から、雇用者側が視覚障害者にたいして、見えないと何もできないというイメージを抱いていると強く感じました。視覚障害者が、晴眼者と同じようにパソコンを操作し、事務仕事ができることを知らない雇用者が多くいます。今現在、就労している視覚障害者がそれぞれの職場で最大限の能力を発揮し、「目が見えなくてもここまでできるんだ！」ということを証明すれば、視覚障害者を見る目が変わり、これから就職しようとしている視覚障害者が内定を得るための一助になるのではないかと考えます。

そのためには、今、就労している視覚障害者がITのスキルアップをしたり、ビジネスに必要な資格を取得したりするための訓練機関が必要です。

現在、特に関西方面では、求職中の視覚障害者しかIT訓練も含めたビジネス訓練を受けることができません。就労中の視覚障害者は、IT機器の仕様が変わってもそれらの訓練を受けることができないし、ブラッシュアップもできないのです。また、関東のように月謝を払えばITの知識を得ることができるという機関も関西にはほとんどないため、そのような機関の必要性を強く感じ、就労中の視覚障害者を対象とした講習会や訓練ができる機会を作り出すというアイデアを提案します。

審査員コメント

視覚障害者の方で日々業務としてパソコンを使用している方は、多数いらっしゃると思われます。使用するソフトはバージョンアップしていきます。しかしながら在職中に訓練を受ける仕組みがありません。事例のようなスキルアップできる訓練が気軽に受けることができれば、本人・企業にとって大変有意義であると思われます。

木村 朱美　音声起稿師、パソコンインストラクター

第２子を出産後、網膜色素編成症に。視覚障害１級。見えない中での子育てに奮闘しながら1年間、日本ライトハウス職業訓練部情報処理科にてITの訓練を受け、パソコン関連の資格を取得。音声起稿師として大阪府や障害者団体等からテープ起こしの業務を受注。視覚障害者にICT機器の指導も行う。

【アイデア部門】

入選　ボーダレスビューティープロジェクト
～ボーダレスビューティーオンラインサポート～

お出かけ前にメイク・ファッションチェックができるオンラインサポートシステム

一人暮らしの視覚障がい者の方は出かける前に家族に洋服やメイクがあっているかを最終確認してもらえず、不安をかかえています。自分がどう見られているのかが不安であるゆえにいつも黒やグレーなど無難な色ばかり着てしまうというお声を視覚障がい者の方から頂いています。このような不安を解決すべく、オンラインという日本全国どこにいてもメイク・ファッションチェックが受けられるシステムを作り出すことにより、一人でも多くの視覚障がい者の方が自信を持って生活できるようになり、より一層メイクやファッションを楽しめる社会を実現していきたいと考えています。

審査員コメント

化粧品会社での勤務経験者とマーケティング担当者が協力し、オンラインを活用して事業展開する方法を高く評価します。視覚障害者にとっても、移動の負担がなく気軽に利用でき、社会参加への意欲を高めることができる事業だと思います。社会に美しく、またかっこよく活躍する視覚障害者を増やして、視覚障害者に対するイメージを変えてください！

花田 真寿美　Precious one 代表/アスリートビューティーアドバイザー®
鈴木 さやか　BEAUTY MAP代表/トータルビューティーアドバイザーパーソナルカラーアナリスト

ボーダレスビューティープロジェクトとして2018年から活動を行っている。視覚に障がいがあるパラアスリートを始め、視覚に障がいがある一般の方のビューティーサポートも男女問わず行っている。個人のお客さまのサポートだけでなく、企業における研修、ワークショップの開催も行っている。

【アイデア部門】

入選　鈴木　さやか

視覚障がい者の方のための化粧品開発
ユニバーサルデザインコスメ

視覚障がい者の方も使いやすい化粧品の発売を行うことで、化粧品を今よりも選びやすく、使いやすく、より一層メイクに自信が持てる社会を作る。例えば色や塗り方を間違うとそれだけで目立ってしまい、化粧が上手くできていないという印象になってしまうので色調は肌色に限りなく溶け込みやすいカラーにし、少し場所がずれたり、はみ出しても目立たない工夫を施す。

デザインも点字などにより中味や色が触って分かる設計に。最終的にはメイク初心者の方、時短メイクがしたい方にも使っていただけるユニバーサルデザインコスメになることを視野に入れ、商品開発を行っていきたい。

審査員コメント

視覚障害者がきれいにお化粧できる製品のアイデアはこれまでになかったものと思います。アイデアに書いてあったチークは、あれば便利であると思います。具体的・実用的なメイクグッズがたくさんでわくわくしました。視覚障害者でなくとも、メイクが苦手な人や朝時間がない人に活用できそうでよいですね。

鈴木 さやか　カラーアナリスト・トータルビューティーアドバイザー

パーソナルカラー診断サロンBEAUTY MAP代表。トータルビューティーアドバイザー/パーソナルカラーアナリスト。株式会社資生堂にて11年間、主に化粧品開発、マーケティングを担当。独立し現在はパーソナルカラーアナリスト養成スクールにおいて講師として活動。化粧品開発の経験を活かし企業の化粧品開発サポートも行っている。